

オレンジホーム神戸 地域連携推進会議

| | | |
|---------------------|---|---|
| 構成員 (出欠) *順不同 | <input checked="" type="checkbox"/> 総施設長 | <input checked="" type="checkbox"/> 神戸聖隷総合相談 センター相談支援専門員 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 管理者 | <input checked="" type="checkbox"/> 就労支援 B 型事業所 SOLEIL サービス管理責 任者 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> サービス管理責任者 | <input checked="" type="checkbox"/> 未来のたね垂水 管理者 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> オレンジホーム神戸職員 | <input checked="" type="checkbox"/> 移動支援事業所つなぐ |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 利用者代表 | <input checked="" type="checkbox"/> 医療法人おひさま会 おひさまクリニック |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 家族代表 | <input type="checkbox"/> (有)塩屋台企画 塩屋台ファーマシー |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 訪問看護事業所 オレンジ神戸 | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 相談支援事業所 オレンジ西宮 | |

| | | | |
|------|------------------|------|-------------|
| 開催日時 | 令和7年11月27日(木) | 開催時間 | 13:30~15:00 |
| 開催場所 | オレンジ神戸 Duo 地域交流室 | | |

議 事

『事前説明』・個人情報保護の同意に基づき、当会議に関する個人情報は漏洩しないことを確認した。

- ・発言の前には、所属とお名前をお願いした。
- ・今回参加された皆様は、構成員（地域連携推進員）という形になるので今後も継続的な参加をお願いした。

1. 挨拶（管理者）

グループホーム管理者より、法人事業運営に対する参加者の理解と協力への感謝、また本会議の進行役も兼任する旨が伝えられた。障害者が地域社会で安心して自分らしい生活を送るためには、医療・福祉・行政・地域住民との連携が不可欠であること、本日はその連携強化と地域支援体制の充実を目的としていることが説明された。

2. 地域連携推進員のご紹介

各参加者が自己紹介を実施。他事業所の管理者、サービス管理責任者、西宮や神戸の相談支援員、訪問看護事業者、移動支援担当者、クリニック相談員など、多様な支援・福祉関係者が参加していることが確認された。

3. 地域連携推進会議の趣旨説明

近年、障害福祉サービス事業所が増加する中で「支援の質」確保・向上が重要な課題であり、2024年度より国の制度として【地域連携推進会議】の年1回以上の開催が義務付けられた旨が説明された。本会議の主な

目的は以下の4点。「利用者と地域の関係作り」「地域の理解促進」「サービス質の確保」「利用者権利擁護」。地域連携推進委員は外部視点による助言・見学・気付き提供も役割となるので、皆様からのご意見を賜りたいので、よろしくお願ひしたい。

4. 共同生活援助（グループホーム）内覧

初参加・希望者を対象にサービス管理責任者同行での施設内覧を実施することが案内された。見学時の流れ、同行案内者、荷物の扱い等について説明あり。

5. 日常生活・利用者交流・活動報告

会議中、利用者の生活に関する会話・日常活動・イベント・クリスマスに向けた制作物（塗り絵・折り紙など）・入浴や食事の様子等、日頃の交流状況について報告及び雑談がなされた。特に2024年の食事内容や利用者の活動意欲、グループワーク、交流を通じた生活向上の一端が共有された。

6. 議事

① 法人概要・当事業所の紹介（総施設長）

2003年12月17日、「法人」が設立。2006年8月1日に障害者支援施設を開始。兵庫県で13番目、約20年で最も新しい障害者施設。障害者支援を基盤とし、18歳から65歳までの利用者の高齢化を見据え、10年後の特別養護老人ホーム（特養）へと事業展開。特養は2019年と2023年4月に新設。池田に関連施設あり。グループホームは16年以上の運営実績で、西宮、神戸地区など複数設置。有料老人ホームや短期入所もサービスとして展開。コンセプトは障害福祉サービスと高齢者福祉を隣接・複合提供すること。

② 現状報告（サービス管理責任者）

現在の利用者様：合計10名（上下5名ずつ、ユニット型運営）。短期入所2部屋有り。入居者は主に知的障害（区分3・4）、精神・身体障害併用者も在籍。個別支援を重視しつつ、自立支援と見守りの両立を実施。1階は転倒リスク高い方が中心で見守り強化。入浴時は見守りチャイムを活用。日常支援は掃除、食事、洗濯、買い物等。食事は手作り中心、利用者様リクエストも反映。誕生日会や外食も実施。金銭管理は半数以上を職員代行、ノートで管理内容可視化。健康管理は「おひさまクリニック」と個人契約した利用者様は月1回の往診、その他の利用者様のほとんどが職員同行で定期的に受診されている。訪問看護事業所との医療連携、個人契約での医療ケアは、グループホーム利用者様に好評。機能訓練・会話等で体調も改善。

③ 地域連携・今後の福祉サービス展望

障害サービス→高齢者サービスへのスムーズな移行を重視。グループホームに加え、新たな「日中サービス支援型」共同生活援助所を来年姫路で開設予定（地鎮祭・建築・指定申請済）。24時間体制で人材確保。今後は介護人材の一層強化も視野。行政・社会の動き（食事代過大請求事件を契機とした監督強化）にも対応、毎年厳格な費用精算・明細返金/請求を徹底実施。本年度は費用不足分徴収、西宮は一部返金。

④ ご意見・ご要望

利用者の生活満足度の向上（食生活の改善、自立支援、利用者交流・役割分担等）、グループホームでの役割意識UP。保護者等からは障害から高齢者サービスへの切替時の不安、経済的負担軽減（医療費は助成制度上限400～800円/回と抑制）、自治体対応の違い、介護人材不足等の指摘。障害福祉→介護保険移行時の円滑な連携と情報共有が期待される。

⑤ 次回の議題のご提案の確認

新規「日中サービス支援型」への移行促進、グループホーム入居者の高齢化対応、人員・スキル確保、施設

間連携や地域コミュニティ化に関する更なる課題解決に取り組む意向。

7.終了・解散